

【ユニリハ】 特殊ビーズクッションによる

ポジショニングアプローチ 理論編×実技体感編

身体全体へ支持と固定を入力し、
重力と抗反撥に拮抗させるポジショニング。

身体を包み込む感覚入力をビーズクッションで
型を採り全身を固定するような環境にすると、
筋緊張の改善と高次脳機能への変化が確認され
ました。



日時 2021年7月30日(金) 10:00～16:30

・会場 多摩平の森ふれあい館 (東京都日野市多摩平2-9)

参加費 15000円

・申込URL <https://www.meducation.jp/seminar/regist?id=61454>

お問い合わせ 日本ユニバーサルリハビリテーション協会

TEL 042-208-0102 E-mail otmode@jcom.home.ne.jp

URL <http://universalreha.com/>

【高反撥ビーズクッションポジショニングの考察】

身体背面、身体輪郭に対して、硬い面上で触れる感覚入力は『身体を固定』し、身体定位と麻痺側の認知を促し、筋緊張の安定を経て麻痺側空間への認知に移行したと考える。この現象の理解として一般的な臨床を考えると、片麻痺患者の臨床では、屈筋側の過緊張を呈した場合、活動電位が高まり屈曲方向の運動が優位となる。しかし、この環境により、麻痺側背部や肩甲骨周囲、腰部の広範な感覚入力と支持性が拮抗筋の支持と拮抗筋側の活動電位に影響し、伸張反射等脊髄反射や α - γ 連関に影響した。更に感覚と支持性の安定は、身体の筋組織全体に無数に存在する筋紡錘と表在感覚や運動覚、位置覚と連動を始め、脳(運動前野)の本来の役割が γ 系を介して遠心性に指令を出し、高次脳機能に必要な身体生起に影響したと考える。

講義スケジュール 研究及び臨床実績と理論編～実技体感編

重力をコントロールし低反撥ではなく高反撥で強い感覚入力を行う。このポジショニングを行うことで、異常筋緊張に変化が起こり、姿勢、動作、ADLに影響した研究結果と具体的な症例と共にご紹介します。

- 長期療養生活者の筋緊張の緩和と関節拘縮の変化
- 慢性閉塞性肺疾患患者の身体機能変化とバイタルの安定
- 理論の説明と応用および質疑応答
- 完全支持固定された環境での実体験
- 応用および質疑応答